

時間に時間をささげる

2月

2025年2月1日

読者の皆さん

2025年2月を迎えるに当たり、最も楽しみにしていることは何ですか。それは、あなたの心が満たされる体験でしょうか。シヴァの月の神秘的な引きつける力でしょうか。

私にとっては、どちらとも決め難いことですが、月について少しの間とどまることにしましょう。私はいつも、月とそれが象徴するものに魅了されてきました。例えば、私たちは月が満ち欠けを経ながら動いていくのを見ると、時間が流れているという印象を得ます。しかし、月は常に完全です。常に同じ輝く白い球体です。月の形が変化するというのは、地球上の私たち自身の位置と太陽の位置との関係によって作り出される幻想です。

さて、月の満ち欠けが幻想だとしたら、月や太陽のような天体に基づく私たちの時間という構成概念もまた、どの程度幻想なののでしょうか。私たちは時間から区別を作り出し、それに従って生活を組み立てますが、時間はそのような区別を超越するのでしょうか。それとも時間は水のようなもので、何であれ関わるもの、私たちが持ち込むものの色素や形を取るものなのでしょうか。

このように振り返りながら、グルマーイの2025年のメッセージを受け取ったことにどれほど感謝しているかを伝えたいと思います。そして、そう、グルマーイはこのメッセージを特に私のために与えてくれたようにも感じます。あなたもそう感じているなら、まあ、そうですね、それもいいでしょう！ いずれにせよ、たった今私が投げ掛けたような疑問について熟考する一年があることに、私はワクワクしています。

私たち人間が特定した時間の区分には、それぞれはつきりと異なるエネルギーが感じられると、私は信じています。2月を例に取ってみましょう。今年の2月は新月の直後に始まり、中国の新年(旧正月)の15日間の祝祭は進行中です。そして、2月14日には聖バレンタインデーを祝います。その日は満月の2日後で、ロマンチストにとっても瞑想者にとってもそれは愛の変わらぬ象徴です。最後に、月が欠けて輝く三日月になった2月26日に、私たちはラタジャガに参加します——マハーシヴァラトリーの時に、私たちは夜遅くまで起きて崇拝をささげます。インド暦で最も縁起の良い三つの夜のうちのひとつとされる夜に、シヴァ神の祝福を祈願するのです。

もし私たちが、時間は特定のレンズやフィルターを通して体験されるという前提を受け入れるなら、「時間という存在の前で」の今月のグルマーイの教えの学習に、それらのレンズを適用することをお勧めします。2月は愛とシヴァ神の月です。無条件の愛と無条件の恩恵のレンズを通して見ると、どのようにグルマーイの教えの理解が深められるのでしょうか。このような学びの道に踏み出すことで、あなたはどのような体験をするだろうと思ひ描きますか。2月末までに、あなたのサーダナーのどこに自分自身を見たいですか。

グルマーイの教えを学ぶにつれて、私たちが探究している数々のテーマに、一貫するものを見いだすかもしれません。インドの教典では、シヴァ神は、この世の出来事を目撃し、そこから距離を置く偉大な世捨て人として言及されています。しかし彼はまた、デーヴィー・パールヴァティーと結婚し、彼女に対する純粋な愛、彼女への献身は伝説的です。シヴァ神はさらに、彼を崇拝する人々に対する慈悲深さでも知られています。彼はボーレーナート、つまり無邪気で素朴な心を持つ神であり、誠意と献身をもって唱えられたマントラにはたった1回であっても応えと言われています。愛は愛を認識し、マントラはその源に戻ります。すべては、シヴァ神の楽器である二面太鼓のダマルから発せられる原初の音に包まれています。

そして恐らく、偉大な世捨て人であるシヴァ神の例を学ぶことで、私たちは時間、そして愛をよりよく理解し近づく方法の手掛かりを見つけることができるかもしれません。時間(または愛)と

格闘したり、時間(または愛)と駆け引きしたり、なぜ時間(または愛!)が独自の道を作り上げようとするのかと疑問に思ったりする代わりに、時間があるがままに受け入れ、そこから、できる限りそれを活用しようと努力したらどうでしょうか。愛を、それが望むように自らを明らかにさせたらどうでしょうか。そうすれば、たとえ時間が月そのもののように純粹で公平なままであっても、たとえ私たちの愛の体験が執着と無執着の間を揺れ動いていても、私たちは、時間が私たちの側にいることの意味を知るでしょう。私たち一人一人が愛の側にいることの意味を知らう。

心を込めて

イーシャ・サーデサイ



© 2025 SYDA Foundation®. 著作権所有。